

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870200629		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホーム オリμπピア灘		
所在地	兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1番15号		
自己評価作成日	2023年1月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2022年10月に20周年を迎えたオリμπピア灘は、チャレンジを続けていくことを、「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもとに、ご利用者の尊厳ある生活をお手伝いさせていただいている。住み慣れた地域で継続した生活をしていただくため、共用型デイサービスで地域密着活動を推進しながらグループホームのケアへと繋げている。コロナ禍が長く続いており、外出や地域住民等の来訪が難しくなる中、民生委員、町内会を軸に定期的に情報共有を行っている。また、認知症ケアの拠点として、ご家庭での認知症ケアの助けとなるため、法人で認知症の基礎理解として講演会を開催している。光朔会オリμπピアの理念、活動への思いを伝えていくために、サービスや研修等を通して地域と関わり、更なる飛躍を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアの拠点として、可能な方法を工夫して地域交流・地域貢献を継続し、共用型デイサービスで地域密着活動の推進に努めている。通常の外出や交流は休止しているが、日常生活の中で楽しみや役割を感じ、その人らしい生活が継続できるよう支援している。毎食各ユニットの献立による手作りの食事を提供し、利用者の希望・季節・行事を取り入れた献立、デリバリーの活用、屋上でのバーベキューやピザパーティー等、食事を楽しめる機会づくりに注力し、調理の過程に利用者も積極的に参加できるよう支援している。検討事項・共有事項があれば随時カンファレンスを開催し、時には利用者に参加を依頼して意見を聞きながら、利用者の生活向上につなげている。記録類が整備され、PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメントにより、利用者の現状に即した自立支援・個別支援につなげている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年2月9日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢になっても、誇りを持ったこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念とし、理念実践のための3つの約束、毎日の朝礼、理事長研修等の各研修を通じ、全職員で共有、実践している。	「オリμπピアの理念」「オリμπピア灘の理念」「3つの約束」を明文化し、「オリμπピアの理念」の中に地域密着型サービスとしての意義を表している。「オリμπピア灘の理念」「3つの約束」を各ユニットに掲示し、毎日の各ユニットの朝礼で利用者と共に唱和し共有と浸透に努めている。新人研修・毎年の全体研修等を通じて、理解を深める機会を設けている。「オリμπピアの理念」「3つの約束」をもとに、各ユニットの年間ビジョンを作成し、半期毎にユニットカンファレンスで振り返りを行い、実践に向け継続的・計画的に取り組んでいる。また、随時開催するユニットカンファレンスでも、「オリμπピアの理念」「3つの約束」に立ち戻った検討が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入している。コロナ禍が長く続き、地域住民の来訪が難しくなっているが、民生委員や町内会と情報共有を行っている。地域のこども園との交流は大きな楽しみとなっている。	自治会に加入し、自治会や民生委員と協力関係を構築している。通常は利用者が地域に出かけて交流する機会を数多く設けているが、コロナ禍のため休止している。法人内保育園児との交流、トライやるウイーク・インターンシップ等の学生の受け入れ、地域の商店と協働しての利用者支援、地域からの介護相談への対応、共用型デイサービスを通しての支援等、可能な方法で地域交流・地域貢献が継続できるよう取り組んでいる。地域ケア会議のネットワーク機能を活用し、地域共通の課題の解決に向け協働している。法人としても、常務理事が講師を務める「オリμπピア福祉講座」の開催等、地域貢献を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、認知症の基礎理解とした講演会を行い、啓発活動を行っている。見学时、電話等での相談に対応し、共用型デイサービスを通じたご家庭への支援を行っている。		

グループホーム オリμπピア灘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が続いていることで会議開催が容易ではないが、ネットワークとして活動を継続している。多大なご協力をいただいていることもあり、この集いから利用者相談をいただくことも多くある。	利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員・民生委員・大学名誉教授等を構成委員とし、2ヶ月に1回、書面報告により開催している。事業所の状況等の報告書「運営推進会議の報告」と「月刊オリμπピア灘」を構成委員・全家族に郵送し、行事・活動等を報告している。2017年までは、議事録をホームページで公開している。	・運営推進会議の内容を、公開することが望まれます。 ・郵送する資料に返信用紙を同封し、返信された意見や情報等を次回の報告書で共有する等、書面開催でも構成委員と意見・情報交換できるよう工夫してはどうか。
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、コロナウイルスに関する情報を、県、市からいただき、感染防止策、ワクチン接種などに役立てている。市への報告体制が整備され、報告が以前よりも容易になっている。	運営推進会議を通じて、あんしんすこやかセンターと連携を図っている。地域ケア会議であんしんすこやかセンターと協働し、地域の課題解決に向け取り組んでいる。県・市等からのコロナウイルス関連の最新情報の提供や抗原検査キットの配布、区の保健師による巡回訪問を受け、県・市・区と連携して事業所内の感染予防対策に反映している。不明な点や課題等があれば市に相談して助言を受ける等、相談しやすい関係を構築している。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという大前提の元、言葉による拘束、薬物による拘束なども絶対に行わないことを遵守している。そのための理解を、委員会、研修を通して全職員が理解する。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束防止会議」を3か月に1回開催し、スピーチロックも含め適正化に向けた検討や、かかりつけ医と連携しながらドラッグロック防止に努めている。議事録を1階に設置し職員に閲覧を促している。カンファレンスでも、適宜行動制限に関する議題を取り上げ、「理念」や「3つの約束」に立ち戻って話し合い、意識向上に努めている。年間研修計画に身体拘束に関する研修を年2回入れ、令和4年度は4月には映像研修とミーティングを実施し、2月に講義形式での研修を計画している。事業所内研修は、全ての職員が参加できるよう複数回実施している。日中は、玄関・エレベーターの施錠は行わず、閉塞感を感じない環境を整備している。	「身体拘束防止会議」の議事録について、確認印等で職員の周知状況を明確されてはどうか。

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義、通報義務など、法令理解に努めている。認知症ケアを学び、理念である尊厳ある生活が送れるお手伝いを実践している。	令和4年11月に管理者が神戸市主催の「高齢者虐待防止研修」を受講しており、5年2月の事業所内研修に反映させる予定である。オリンピア全体研修(毎年3月に実施)の中でも、身体拘束防止とともに、高齢者虐待防止についての研修を実施している。各ユニットで、言葉遣い・接遇・敬語等をテーマとして具体的に検討するカンファレンスを随時実施し、時には利用者も参加し、利用者の意見や感想を職員の気づきや意識向上につなげている。管理者やユニットリーダーが相談しやすい関係づくりに努め、また、ホーム長や理事長にも直接相談できる環境を整備し、職員のストレスや不安が不適切なケアにつながらないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際にご利用しているご利用者が数名いらっしゃる。法人内に相談機関があること、管理者を中心に相談があった場合に対応できる仕組みを作っている。	オリンピア全体研修(毎年3月実施)の中で、法人の事務局長(行政書士)が、権利擁護に関する制度についての研修を行っている。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、後見人への書類の提供・状況報告等、制度利用への協力や支援を行っている。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、管理者が相談対応し、法人内の相談体制を活用して支援することとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、十分な時間をとり、丁寧な説明を心がけている。また、ご入居までに見学や相談、サービスの説明に努め、ご本人、ご家族が安心してご入居できるように努めている。	入居希望があれば見学を勧め、パンフレット・各種資料に沿って、オリンピアの理念・入居後の生活・利用料金等について詳細に説明し、申し込み前に理解と納得が得られるように努めている。契約時は、管理者が契約書・重要事項説明書・各種同意書等の冊子に沿って説明を行い、文書で同意を得ている。特に、重度化・終末期の対応については、指針に沿って詳細に説明している。契約内容に変更が生じた場合は、変更部分の文書を作成し、文書で同意を得ている。	

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、ご家族の来訪は限られた時期となった。オンライン面会を、そのご家庭に合わせて利用しやすい媒体で対応できるように心がけた。面会のご希望強く、安心な方法を検討している。	通常は、日常的に家族の来訪が多く、食事を共にしたり交流する中で、家族の意見や要望の把握に努めている。また、家族懇親会、家族を招待するイベントや外出行事、運営推進会議等にも家族の参加が多く、家族の意見や要望を把握する様々な機会を設けている。現在は、Zoomでのビデオ通話を活用して、家族との面会の機会を設けているが、Zoomの活用が困難な家族には、主に電話・手紙・ラインで利用者の様子を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。「月刊オリンピア灘」を毎月発行し、写真を多数掲載して様子を伝えている。把握した要望等は「申し送り連絡表」等で共有し、個別支援に反映できるよう取り組んでいる。現在は、面会・外出等についての要望が多く、時期・方法等を検討して対応している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアワーカーが法人理事長にメールできる関係性は法人の理解が大きいと思える。日々、スタッフからの希望や意見を聞き、備品整備、ケアの方法を検討している。	利用者のケアや支援方法、業務、接遇面での留意点等について、検討事項や共有事項等があれば、その都度各ユニットでカンファレンスを開催し、職員の意見を反映している。議題に応じて、時には利用者にも参加を依頼し、利用者の意見も反映している。議事録をユニット内で回覧すると共に、他のユニットとも共有し、学び合う機会を設けている。管理者やユニットリーダーが、定期的、随時に個人面談を行い個別に意見を聞く機会を設けている。また、ホーム長・理事長にも、直接意見を伝えたり相談できる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、スタッフごとの目標を設定することで評価をわかりやすくしている。産休、育休から復帰したスタッフに、勤務時間帯を考慮するなど働き続けられる体制をとっている。		

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフに合わせて、ユニットリーダー育成研修を行う他、認知症実践者研修、初任者研修を適宜受講していき、キャリアアップに繋がる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内だけでも多くの事業所があり、部門会議などを通して情報交換等を行っている。また、同地域の小規模多機能サービスの運営推進会議、サービスごとの連絡会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人の情報シートをご家族に作成していただいている。ご入居後、ご本人のご様子や気付いたこと、お声を共有したシートに記入していき、ご安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族が抱えている不安や様々な要望を把握する。面談や見学を通じて状況だけでなく思いを教えていただく。信頼関係を構築するため、ケアプラン作成にはご家族からしっかりと意見を伺う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談いただいた時点で、適切なサービスを検討させていただいている。そのための連絡調整を行い、可能な限り選択肢を持っていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	オリンピアでの生活の主人公は利用者本人であり、「介護される人」という括りはない。ご利用者から日々教わることは多く、ご利用者により職員が成長させていただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がこれまで通りの生活を行うためには、ご本人の一番の代弁者であるご家族の協力が必要である。また、ご家族と変わらぬ関係をご本人が持てることで、安心していただける。		

グループホーム オリμπピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になったことで、オンライン面会を実施するようになり、これまで来訪が難しくなった方が、オンラインという形で顔を合わせていただけようになった。また、電話、お手紙など支援させていただいている。	通常は、日常的に家族の来訪が多く、友人・知人や教会関係者等の来訪もある。日常的な外出や、教会礼拝・自宅への一時帰宅等の個別の外出支援により、馴染みの関係継続を支援している。コロナ禍のため、面会や外出を制限しているが、オンラインによるビデオ面会、手紙・年賀状のやりとり等、可能な方法で家族等との馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、家族の了解を得た上で、「月刊オリμπピア灘」を馴染みの人にも郵送し近況を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場で、ご利用者同士が助け合う場面が多い。ご入居したばかりなど、これから関係を築かれる際などは特に、職員が橋渡しとなり、良い関係を構築していただく。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用いただいていたご家族から、介護相談や入所相談を伺う機会が多い。また、ご退去後、ご家族との交流が続くことが多く、サポーターズクラブ等の支援もいただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者からのお声を聴くことがケアの第一としている。ご希望やご意向、職員間で共有し、共通した支援として実施させていただく。意思疎通が困難であっても、表情や行動から気持ちを理解できるよう努めている。	入居時は、家族記入シート・センター方式シート・個別情報シート等をもとに、生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等の把握に努めている。入居後のコミュニケーションの中で把握した内容は、個別情報シートに記録し、センター方式シートの更新時に追記する等、情報の蓄積と共有に努めている。把握した思いや暮らし方の希望は、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。意思の把握が困難な場合は、理事長研修の非言語コミュニケーションの学びも活かし、表情や反応から思いや意向を汲み取れるように努めている。	

グループホーム オリンピア灘

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人の情報シートをご家族に作成していただいている。一人ひとりの生活を支援するためセンター方式を使ったアセスメントで、ご本人らしい生活の実現を目指している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントだけでなく、日々変化のあるご利用者のご様子を記録している。リスク予測だけでなく、ポジティブな状態変化も大切にしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ご本人、ご家族からご希望やご意向を伺うことはもちろん、主治医や看護師からの助言を取り入れている。現状に即した介護計画の作成のため、アセスメント、モニタリングの結果をカンファレンスで検討する。	入居時の家族記入シート・センター方式シート・個別情報シート等をもとに初回の介護計画を作成している。サービスの実施状況は、システム内の「日誌欄」に日中・夜間別に項目を選択して入力している。「活動表」への記入とシステムの項目機能を活用して、介護計画に沿ったサービス実施が記録できるよう取り組んでいる。月1回、「モニタリング表」のニーズに沿って、モニタリングを実施している。必要時には随時、定期的には3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。見直し時には、センター方式シートで再アセスメントを、「計画書評価表」でモニタリング・評価を行い、「ケアプランカンファレンス」を開催している。利用者・家族の意向や、必要に応じて主治医の意見を聴き取り、議事録に記載し計画に反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の記録をタブレットで行い、必要な情報を見やすくし、記入時間も短縮できている。情報の取り出しが迅速に行えることで、複数の目で評価等を行えている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況やニーズに応じて、話し合いを重ね、柔軟なサービス提供を心がけている。訪問看護サービスと提携を行い、重度化や看取りにより応えていけるようになっている。		

グループホーム オリンピア灘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町内会などの地域資源を中心に、地域の商店とお互い支援している。防災など、地域と協力して備えていかなければいけないことは多くある。	/	
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を入居後にも一番の選択肢としている。必要な治療に応じて、適切な医療を紹介できる仕組みを作っている。	契約時に医療体制について説明し、入居前のかかりつけ医の継続を大切に受診を支援している。協力医療機関から定期的な内科・整形外科・精神科の訪問診療と、希望時の歯科往診を受けられる体制がある。入居前のかかりつけ医への通院と、訪問診療以外の他科受診には、状況に応じて家族または事業所が通院同行し、事業所から適宜情報提供している。往診・通院についての記録は「入居者往診記録」「入居者通院記録」に記録し、システム内「日誌」にも入力し、特記事項等は「申し送り連絡帳」で共有を図っている。訪問看護ステーションの看護師が定期的に訪問し、健康管理や助言を行い、内容を「訪問看護記録」に記録してかかりつけ医と連携を図っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと提携を行っており、医師の指示による医療処置、普段の健康観察や相談を受けることができる。夜間帯も連絡は可能であり、緊急時に正しい判断を取ることができる。	/	
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	神戸労災病院と提携を行い、ご利用者の入院や通院時に情報共有等がスムーズになった。退院に向けての支援も担当者間で相談できるため、早期退院の実現ができています。	連携病院への入院が多く、通院等でも常に情報共有しているが、入院時には神戸市書式「入院連携シート」等で情報提供している。入院中は、地域連携室と利用者の状況や退院に向けた経過等について随時情報交換し、早期退院に向け支援している。退院前には、管理者とユニットリーダーがオンラインの病院カンファレンスに参加し、情報交換を行っている。病院カンファレンスの情報や看護サマリーの内容等を、ユニット内のカンファレンスで共有し、退院後の支援方法や介護計画の見直しを検討している。	

グループホーム オリンピア灘

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化、終末期に関しての方針を説明、確認している。ご本人、ご家族の希望を第一に考え、医療機関、看護師との協働により、住み慣れた場所での看取り対応を行っている。	重度化・終末期に向けた事業所の方針や対応等を、契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明し同意を得ている。終末期を迎えた段階で、主治医からの状況説明を家族と事業所で共有し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、看取りに向けた介護計画を作成している。利用者の状況に応じて複数回ターミナルケアカンファレンスを開催しながら、家族・主治医・看護師・介護職員等が連携し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現場の職員に権限が与えられており、緊急時は即座に救急車を呼ぶことができる。医師、看護師との連絡手段が決まっているので、必要に応じて助言や指示をもらえる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備点検時に消化訓練を行い、職員だけでなくご利用者も参加いただいている。避難場所等の確認を、あんしんすこやかセンターに協力していただき、非常時に備えている。	令和3年度は、年2回の消防保守点検業者の消防設備点検時に、水消火器を使用して消火訓練を利用者も参加して実施し、避難経路・場所等の確認を行っている。令和4年度は、実践的な訓練を計画し、令和5年2月に日中・夜間想定消防訓練を2日に分けて実施する予定である。運営推進会議で、災害発生時の地域との連携体制等について話し合う機会も設けている。各フロアに米・水等保存食を備蓄し、フロアごとに賞味期限等を確認しながらローリングストックを行っている。法人本部でも備蓄を行っている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するために、3つのお約束を掲げ、生活のお手伝いを徹底している。朝礼で唱和することで、みなさまにお約束させていただいている。	「オリμπピア灘の理念」「3つの約束」を毎朝利用者と共に唱和し、「敬語での会話」「尊厳の保持」等について共有と浸透を図っている。新人研修や毎年の全体研修の中でも、人権・コンプライアンス・プライバシー等について学ぶ機会を設けている。ユニットカンファレンスの議題に取り上げ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について具体的に話し合い、意識向上に努めている。カンファレンスに利用者の参加を依頼して直接意見を聴く機会を設け、利用者支援に反映している。契約時に個人情報使用同意書で、「月刊オリμπピア灘」への写真掲載を含め同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の指示で生活されるのではなく、ご利用者が選択、決定していただけるように依頼型でお声をかけさせていただく。意思表示が困難な方も、表情や仕草からご本人の思いや希望をくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりに、その方らしい生活があり、これまで通りの生活を送るパーソンセンタードケアを基盤としている。ご本人からのお声を聴き、これまでの生活歴をお伺いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅でお召しになられていた洋服や化粧品を同じように選んでいただく。ご本人の好み、希望で、その人らしい身だしなみをしていただける支援を行う。		

グループホーム オリμπピア灘

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>各ユニットごとに献立を変えており、ご利用者の得意料理、嗜好を反映させている。ご利用者が料理されることをお手伝いさせていただき、職員も一緒に食事させていただき、楽しむ環境を作っている。</p>	<p>各ユニットで1週間毎に献立を作成し、手作りの食事を提供している。献立に、季節感や行事食、利用者の嗜好や得意料理等を取り入れ、栄養バランスについては法人内の栄養士から助言を受けている。かかりつけ医・訪問看護師・言語聴覚士等専門職者の指導・助言をもとに、利用者個々の嚥下状態等に応じた食事形態に対応している。可能な利用者は、野菜の皮むきやカット・テーブル拭き・配膳等に参加できるよう支援している。陶器の食器を使い、茶碗・箸・湯呑等は自宅から持参し、通常は職員も共に食卓を囲み、家庭的な雰囲気大切にしている。通常は、行事・イベントの外出、個別やグループでの外出、随時家族の参加もあり、外出を楽しむ機会を数多く設けている。現在は、行事に因んだイベント食、国内・外の郷土料理等の企画食・デリバリーの活用、屋上でのバーベキューやピザパーティー等、利用者が食事を楽しめる機会作りに注力している。</p>	
41			<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスについては、法人内の栄養士からアドバイスを受けている。食事、水分量を把握し、変化があれば職員間で共有している。食事量が低下しているご利用者は、好みや生活習慣を見直している。</p>	/	
42			<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアの重要性を理解して、一人ひとりの口腔状態、ご本人の力に応じた口腔ケアを実施している。往診可能な歯科医の協力をいただくこともある。</p>	/	

グループホーム オリμπピア灘

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にパッドの使用をするのではなく、お一人ごとの排泄パターンや習慣の把握に努めている。また、ご本人の羞恥心に配慮したお声かけと支援を心がけている。	システム内の排泄記録で利用者個々の排泄パターンや状況を把握し、可能な限り日中はトイレでの排泄を基本に自立に向けた支援を行っている。夜間は、安眠にも配慮し、利用者個々に応じた介助方法で支援している。介助方法・排泄用品の使用、変更等について、必要があればカンファレンスでテーマに取り上げて検討し、家族とも相談しながら、現状に適した介助方法や排泄用品の使用につなげている。誘導時の声掛け等、利用者のプライバシーや羞恥心にも配慮している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をタブレットにより確認しながら、十分な摂取ができるようお声をかけている。訪問看護師による体調管理にて相談、状態把握を行い、生活習慣の見直しを行う。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居前の生活環境に合わせて、ご本人の希望や習慣に近い入浴を支援している。ご希望の方は毎日でも入れ、お風呂が苦手な方も、ご本人との関係を深め、安心して入っていただけるように努めている。	週2回以上の入浴を基本とし、利用者の体調・気分・生活習慣等に応じて日程や時間帯を調整している。入浴状況は、「入浴記録」とシステム内に記録している。一般浴槽での個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、各自のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。身体状況に応じて、二人介助・シャワー浴・清拭等に対応している。希望に応じて同性介助で対応し、入浴拒否がある場合は、利用者も参加して「入居者の清潔について」の議題でのカンファレンスを行い、支援方法を検討している。入浴剤の使用、ゆず湯等で、季節を楽しむ機会も設けている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は、一律ではなく、その人ごとの生活習慣を尊重している。使い慣れた寝具をご持参の方もおり、リラックスしてお休みいただけるように配慮している。		

グループホーム オリンピア灘

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストをファイリングしており把握しやすい。誤薬などの事故防止に努め、身体状況に変化があった際は医師へ報告相談を行い、見直しを行う。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をご入居前に確認しており、趣味嗜好を反映できるように努めている。ご自宅では難しくなったことも、ご入居後に再び始められたりしている。		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関に鍵をかけることなく、ご本人の希望に応じてお出かけを行う。コロナ禍で外出が日常ではなくなっているが、感染予防に気をつけて外出している。また、屋上などの外気にふれる場所は日常的に行くことが可能。	通常は、日常的な外出や外食、遠方への外出、旅行等、利用者と家族の希望に応じて、家族も参加しながら積極的に外出支援を行っている。現在は、利用者個々の身体状況や希望に応じて、可能な範囲で外出の機会作りに努めている。事業所周辺や近隣公園への散歩、時期を勘案しながら初詣・花見・ポートアイランドへのドライブ等、少人数での外出を支援している。屋上での外気浴やティータイム、バーベキューやピザ窯で焼いたピザパーティー等、戸外で楽しみ、気分転換できる機会作りを行っている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご利用者ごとにご家族とも相談し、方法を決めている。ご本人が支払いを行うということは、重要な社会参加に繋がるということを理解して支援に努めている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されているご利用者が複数いらっしゃる。電話だけでなく、時候に応じた葉書を投函されて、馴染みの人との繋がりを保たれている。		

グループホーム オリンピア灘

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家のように捉え、個性を重視して、季節感のある環境を目指している。花や装飾は、施設ではなくご自宅で飾られていたようにご利用者の希望を伺うなどの工夫をしている。	各ユニットを一つの家として捉え、リビング・ダイニング・キッチンが設置されている。2階と3階に畳のスペースがあり、静養や制作の場所として活用している。利用者の希望を聴きながら、装飾品・絵画等を飾り、ユニットの個性を大切にしている。テーブル席・ソファセット・椅子等が配置され、思い思いにくつろぎ落ち着ける場所づくりを行っている。季節の生花・ひな飾り・七夕の短冊・クリスマス等の飾りつけや季節のイベントを企画し、利用者が生活の中で季節感が感じられるよう工夫している。可能な利用者には、掃除・洗濯たたみ・調理・新聞の取り入れ・花の水やり等に参加できるよう支援し、役割作りと生活感を取り入れている。YouTubeを活用した体操・階段昇降運動・百人一首・カルタ等の日中活動を取り入れ、楽しみながら心身の機能低下予防に取り組んでいる。畑や屋上も、共用空間として活用している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活を行われる中で、気の合う人とくつろげる場所、一人でのんびりできる場所を意識して作っている。ご本人ごとに落ち着ける場所があるということを職員は理解している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っていただくことを入居時に説明している。以前からご使用されていた、使い慣れた見慣れた家具や持ち物をご持参いただく。仏壇や絵画、写真など思い思いに飾られている。	居室に、洗面台・クローゼット・ベッド等が設置されている。机・ソファ・書棚・たんす等、使い慣れた家具や、家族の写真・絵画・仏壇・時計・ぬいぐるみ等、今までの生活の中で大切にしていたものが持ち込まれ、居心地良く過ごせる環境づくりが行われている。居室の掃除や衣替えは、利用者を職員が自立支援して一緒に行い、時には利用者同士が協力して行い、互いに支えあう関係を大切にしている。	

グループホーム オリンピア灘

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お料理やお散歩など、リスクに注意しながらチャレンジしていくことによって、ご本人の生活の質を上げることが基本姿勢としている。その中で、その時々体調や思いに配慮して、安全への支援を行っている。		